



▲石澤寛助さん

▶長男寛一さんらが寛助さんらの仕事を一冊の本にまとめたもの。



いしざわかんすけ
●石澤寛助さんの年表

こうか
弘化元年(1844年)

いのかみ だいしやうや
東白川郡伊野上村(現棚倉町)の大庄屋(酒づくり)
さがわ やすけ
佐川弥助さんの三男として生まれた。

明治2年(1869年)

いしざわきち ぎ えもん ようし
伊野上村の石澤吉左衛門さんの養子となる。

明治3年(1870年)

せいえきぐみ
「生益組」をつくる。

上台の国の土地60ヘクタールを払い下げて開たくし、
生活の向上をはかった。

ばばつつ こわけじんじゃ に おうぞう うつ
「馬場都々古別神社の仁王像」を移した。

明治4年(1871年)

めいじ いしん しんぶつぶんり ぶつぎやう はい
明治維新の神仏分離によって起こった、仏教破壊から
ぞう
像を守るため長久寺に移した。

たまのせき かいしゆう
「玉野堰の改修」をする。

もう たまのせき
社川に設けられた玉野堰は、毎年のように大雨のとき
は かい
破壊され、また普通は水量が少なく、しばしば日照りに
みま
見舞われるために、上流に新しい堰をつくり、社川・棚
りゆういき うるお
倉流域の田を潤した。

明治10年(1877年)

かいのうしや
「開農社」をつくる。

きよか え
会員18名の社長となり、明治11年に県の許可を得て、
ゆいいつ しどうきかん
唯一の民間農業指導機関をつくった。

明治16年(1883年)

かんすけ かいどう
寛助さんら4名の意見により、白河街道を上台坂から
風呂ヶ沢に移した。

明治22年(1889年)

ゆうびんでんしんでん わきよちやう
棚倉郵便電信電話局長になる。

明治25年(1892年)

しんのうかい
「棚倉神農会」をつくる。

ばばつつ こわけじんじゃ ひんびやうかい
会員1,147で馬場都々古別神社において、農産物品評会